

平成27年度 第3回 桜井市地域公共交通活性化再生協議会 次第

日時：平成28年2月22日（月） 午後3時30分から

場所：桜井市役所本庁 3階 第1会議室

1. 開 会

2. 挨 拶 会長 笹谷 清治

3. 議 事

- 1) 平成27年度地域公共交通改善事業に関する事業評価（自己評価）について
 - ・資料1：地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（書面決議済）
- 2) 平成27年度桜井市公共交通運行効率化調査検討業務について
 - ・資料2：平成27年度桜井市公共交通運行効率化調査検討業務について
- 3) 桜井市の公共交通を活用した観光戦略について
 - ・資料3：桜井市の公共交通を活用した観光戦略について
 - ・資料4：桜井市の公共交通を活用した観光戦略 事業スキーム
 - ・資料5：公共交通を利用した観光戦略の先進事例（説明）
 - ・資料6：公共交通を利用した観光戦略の先進事例（写真）
- 4) コミュニティバスの街頭啓発について
 - ・資料7：街頭啓発による公共交通の利用啓発について
 - ・資料8：啓発チラシ
- 5) 平成28年度デマンド型乗合タクシーの運行計画について
 - ・資料9：平成28年度デマンド型乗合タクシーの運行計画について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年1月29日

協議会名: 桜井市地域公共交通活性化再生協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通ネットワーク計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価	A・B・C 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通ネットワーク計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
奈良交通株式会社	系統名: 桜井市コミュニティバス(多武峯線) 運行区間: 桜井駅南口～談山神社 運行期間: 平成26年10月～平成27年9月	【前回の事業評価結果】 利用ニーズに合わせた公共交通の再編 【反映点】	A 計画通り適切に実施された。	B 目標値である7.3名/便に対して、実績は6.3名/便であった。(昨年は6.8名/便)。観光利用・生活利用共に利用者が減少している。	利用促進策としてバスの時刻表以外に目的ごとのルート・ダイヤを記載した「バスマップ」を作成、配付する。また、実証運行となっている西北部循環線については、平成29年3月末までの利用実績を分析し、平成29年4月以降の運行のあり方を考える。
奈良交通株式会社	系統名: 桜井市コミュニティバス(初瀬・朝倉台線) 運行区間: 桜井駅北口～吉隠 運行期間: 平成27年6月～9月	平成27年6月にコミュニティバスの再編を行った。再編内容は以下の通り ＜既存路線の組換え＞ 初瀬線、朝倉台線	A 計画通り適切に実施された。	B 目標値である4.4名/便に対して、実績は3.0名/便であった。路線を大幅に再編した直後であるため、まだ住民に浸透していないものと思われる。	
奈良交通株式会社	系統名: 桜井市コミュニティバス(南循環線) 運行区間: 桜井駅南口～済生会中和病院 運行期間: 平成27年6月～9月	↓ 初瀬・朝倉台線 北循環路線 南循環路線 ＜新規路線の設置＞ 西北部循環路線	A 計画通り適切に実施された。	B 目標値である4.0名/便に対して、実績は3.5名/便であった。路線を大幅に再編した直後であるため、まだ住民に浸透していないものと思われる。	
奈良交通株式会社	系統名: 桜井市コミュニティバス(西北部循環線) 運行区間: 桜井駅南口～市西北部 運行期間: 平成27年6月～9月	＜変更なし＞ 多武峯線	A 計画通り適切に実施された。	A 目標値である4.0名/便に対して、実績は4.0名/便であり、目標値を達成できた。	
日の丸交通株式会社	系統名: 桜井市デマンド型乗合タクシー 運行区間: 上之郷地域～済生会中和病院 運行期間: 平成26年10月～平成27年9月	【前回の事業評価結果】 住民要望に応え、利用範囲の一部拡大 【反映点】 計画通り利用範囲を拡大した	A 計画通り適切に実施された。	A 利用者数1,899人(昨年度比14%減)で、事業開始当初(H22年度:1,793人)と比較すると高い利用率を保っており、一定の需要を満たしていると考えられる。NW計画の目標である「月当たりの利用者数を前年度比で増加させる」については、1年のうち2カ月達成する結果となった。	一定の評価は得られているので、より利便性を高くできるよう、ダイヤ等を利用者と協議しながら運営する。

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果の実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成28年1月30日

協議会名:	桜井市地域公共交通活性化再生協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	【目的】 桜井市地域公共交通総合連携計画に基づき、公共交通空白地域の解消や買い物・通院、通学などの生活交通の確保を目的とし、桜井市内を運行対象とする「桜井市コミュニティバス」3路線(初瀬・朝倉台線、循環路線、多武峯線)、並びに桜井東部の上之郷地域(初瀬川上の一部(初瀬715番地以北)を含む)における「デマンド型乗合タクシー」を運行し、地域住民の利用促進を積極的に図り、運行事業計画の改善をしながら、地域公共交通確保維持改善事業に取り組む。 本市の地域公共交通システムを確保するためには、基幹路線＝鉄道・路線バスと地域内路線(フィーダー機能を含む)＝コミュニティバス・デマンド型乗合タクシーなどの運行が必要である。 【必要性】 コミュニティバスは、市内在住の方の生活交通の確保及び登校のための交通手段として運行している。また、桜井市に来訪された方を対象とした観光路線としての観点からも利用されている。 デマンド型乗合タクシーは、公共交通空白地域である桜井東部の上之郷地域(初瀬川上の一部(初瀬715番地以北)を含む)における生活交通の確保のために、鉄道駅や総合病院のある桜井市中心市街地を結び、高齢者等の通院などの手段として利用されている。

桜井市地域公共交通活性化再生協議会

事業名：平成27年度地域内フィーダ系統

目的 計画 目標 (P)

＜計画＞桜井市生活交通確保維持改善計画

＜上位計画＞桜井市第5次総合計画、第2次桜井市地域公共交通総合連携計画

＜目的＞第2次桜井市地域公共交通総合連携計画に基づき、公共交通空白地域の解消、生活交通の確保を目的とする。コミュニティバスは、市内在住者の生活交通の確保、及び桜井市に訪訪された方を対象とした観光路線としての役割を担っている。また、デマンド型乗合タクシーを運行している東部は、コミュニティバス小夫線が休止となった地域であり、代替路線として運行している。

	初瀬・朝倉台線	循環線	多武峯線	デマンド
目標値(人/便)	4.4	4.0	7.3	5.7

具体的取り組み (D)

	運行区間	運行回数	運賃制度
コミュニティバス多武峯線	桜井駅～談山神社	平10/休8.5	距離運賃制
コミュニティバス初瀬・朝倉台線	桜井駅～吉隠	平9.5/休7	距離運賃制
コミュニティバス南循環線	桜井駅～済生会中和病院	毎日6	190円均一
コミュニティバス西北部循環線	桜井駅～市西北部	平3	190円均一
デマンドタクシー	市東部～済生会中和病院	週3日 10回	500円均一

取組みに対する評価 (C)

コミュニティバス多武峯線は6.3人/便(目標7.3人/便)となり、目標達成には至らなかった。生活利用・観光利用両面で利用者数が減少している。コミュニティバス朝倉台線は3.0人/便(目標4.4人/便)、南循環線は3.5人/便(目標4.0人/便)となり、目標達成には至らなかった。ただし、路線の再編から3か月しか経過していないため、まだ住民に浸透していないものと思われる。コミュニティバス西北部循環線は4.0人/便(目標4.0人/便)となり、目標値を達成できた。デマンド型乗合タクシーは年間利用者が1,899人(4.3人/便)となり、昨年度比-14%となったが、一定の評価をいただいている。

自己評価から得られた課題、対応 (A)

＜課題＞利用促進不足、新規路線に対する分析

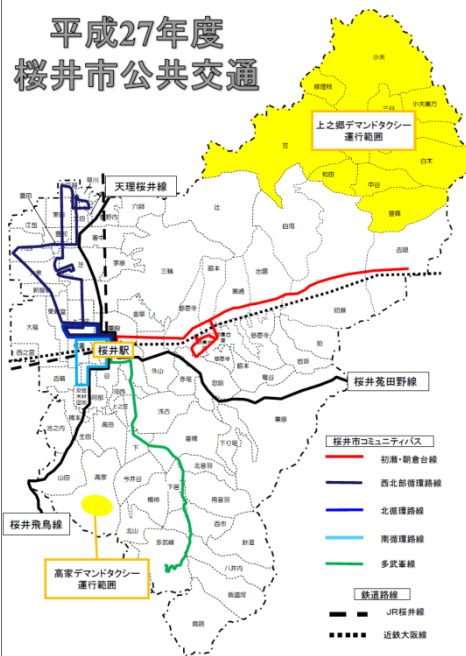
＜対応＞利用促進策として、バスの時刻表以外に、目的に合わせたルート・ダイヤを記載した「バスマップ(仮称)」を作成し、配付する予定。また、現在実証運行となっている新規路線の西北部循環路線については、平成29年3月末までの利用実績を分析し、平成29年4月以降の運行のあり方を考える。他の路線についても随時追跡調査を行い、運行計画に反映する。

アピールポイント、特に工夫した点など

平成27年3月に策定した、桜井市運行実施計画に従い、平成27年6月にコミュニティバスの大幅なルート・ダイヤ再編をおこなった。内容としては、アンケート等の結果から利用頻度の高い施設を分析し、桜井駅を起点として市内の主要施設へ公共交通のみで行くことができる路線を確立した。また、次年度以降の運行計画に反映できるよう、それぞれの目標値についても再設定した。

概要図・参考資料

平成27年度 桜井市公共交通



【市の概要】

人口：59,120人(平成27年12月)
面積：98.92平方キロメートル
高齢化率：28.5%(平成27年12月)
系統数：4路線9系統
(内国庫補助8系統)

【運行回数】

コミュニティバス 1日平均9.5回
デマンド 週3日 計10回

【自治体負担額】

(コミュニティバス、デマンド合計)
平成23年度 29,932千円
平成24年度 33,088千円
平成25年度 34,681千円
平成26年度 33,796千円

【協議会等開催状況】

平成27年4月15日 第1回協議会
平成27年10月28日 第2回協議会
平成28年2月22日 第3回協議会(予定)

平成 27 年度桜井市公共交通運行効率化調査検討業務について

1. 業務の目的

現在、桜井市の公共交通は、第 2 次桜井市総合連携計画に従い、地域ごとの目的を定めて運行している。市全体としては、「まちづくりに関する包括協定」に基づき、市内 5 つの地域で市と協働でまちづくりに取り組んでいる。今後の市のあり方として、まちづくりの推進と公共交通は切り離せないものとなっており、一体的な取り組みが求められている。

以上のことから、まちづくりと一体的で効率的な公共交通のあり方を目指し、平成 27 年度桜井市公共交通運行効率化調査検討業務を行うものとする。

2. 業務期間

平成 28 年 2 月 9 日～3 月 25 日

3. 業務内容

- (1) 平成 27 年度新規公共交通（西北部循環路線・北循環路線）現況調査
平成 27 年 6 月に運行を開始した、西北部循環路線・北循環路線の現状調査・分析を行う
- (2) 大福駅周辺地区の公共交通需要予測
近鉄大福駅周辺の公共交通需要を調査し、必要な移動手段を検討する
- (3) 中和幹線を通じた公共交通連携シミュレーション
中和幹線沿いの交通需要を調査し、他市町村と連携した公共交通手段を検討する
- (4) オーベルジュへのコミュニティバス実証運行現況調査
高家オーベルジュへの実証運行の乗降数の調査を行う

4. 委託業者

株式会社かんこう

…プロポーザル審査により決定。平成 22 年、平成 26 年にそれぞれ策定した桜井市地域公共交通総合連携計画策定支援業務の受託実績あり

5. 経費

3,337,200 円

(内 3,000 千円は県の補助事業「平成 27 年度安心して暮らせる公共交通確保事業」を活用)

桜井市の公共交通を活用した観光戦略について

【概要】

現在、市内の公共交通機関は主に住民の生活利用のための路線となっており、実際の利用状況としても通院や買い物など生活に直結した利用が中心となっています。しかし、公共交通の利用者数は年々減少しており、住民による生活利用だけでは持続が難しい状況であり、新たな利用振興を行う必要があります。

そこで、本協議会では、市内の豊富な観光資源を活かした「観光路線」の需要の掘り起こしと、公共交通の利用振興を行いたいと考えています。桜井市で運行している全てバス・デマンドタクシーは近鉄・JR 桜井駅のフィーダー系統（支線）になっているため、鉄道路線と一体となった効果的な取り組みが必要となります。また、奈良県には海外からの観光客も多いので、インバウンドにも対応した利用振興策についても検討していきたいと考えています。

【現在検討中の利用振興策】

○ 多言語案内看板の設置

現状、「桜井駅から各観光施設への交通手段が分かりにくい」という課題があるため、観光で来られた方にとってわかりやすく、また、海外から来られた方にも対応できるよう、多言語案内看板を駅構内や駅前のバス停等に設置する。

○ インバウンド向け 1 日周遊切符の配布

現在、奈良県内には海外からたくさんの観光客が訪れているが、奈良市止まりで桜井市まで足を伸ばす方が少ない状況である。そこで、市内を運行しているバスが 1 日乗り放題になる周遊切符を作り、観光案内施設等に配付することで利用振興を図る。

【前回協議会（１５１０２８）での意見】

<奈良県への観光客の現状>

- ・ 関東から関西に来るお客様や海外からのお客様は JR の利用が多く、私鉄の利用を避ける傾向にあるが、京都から桜井までは近鉄線の方が早く移動できるため、広報を強化すべきである。
- ・ 観光バスで観光に行くことはあっても、旅行先で路線バスやコミュニティバスに乗ることは少ない。

<桜井市の抱える課題>

- ・ JR と近鉄線の結節点である桜井駅の利便性を高めるためには近鉄特急の停車が不可欠である。
- ・ もっと交通網を整備し、観光客の多い奈良市で広報を行うべきである。
- ・ 桜井市はまちづくりや観光に携わる団体がそれぞれバラバラに活動しているため、もっと桜井市に観光客を呼ぶためには各団体が一体となって取り組むべきである。

<その他>

- ・ 公共交通を活用した観光戦略を考えていくにあたり、今後の方針として、スケジュール感やスキームを整理する必要がある。

【公共交通を活用した観光戦略実施に向けて】

<最終目標>

公共交通の利用者数及び交流人口の拡大

平成25年度実績

公共交通利用者数：76,716人（※）

交流人口：45,000人

※コミュニティバスの定期利用者やデマンドタクシーの生活利用除く

<スケジュール>

平成27年度

第1回：公共交通を活用した観光分野での課題整理（実施済）

第2回：公共交通を活用した観光戦略のアイデア出し（今回）

第1回の意見を踏まえ、先進事例を参考にしつつ、桜井市の観光資源を活かした公共交通利用者を増加させる策のアイデアを提案する

平成28年度

第3回：具体策の選定、ブラッシュアップ

第2回で提案されたアイデアを事務局で整理し、実施可能な策としてブラッシュアップする

第4回：最終調整

予算の調整や関係機関との連携等の準備を行う

具体策の実施

実施内容や準備の状況、予算等の関係により、平成28年度～平成29年度に実施

サポート

国

県

※補助制度(「安心して暮らせる公共交通確保事」
「地域公共交通確保維持改善事業」など)の活用や、
アドバイス等

サポート

サポート

計画立案

桜井市地域公共
交通活性化再生
協議会

計画

実施主体

桜井市・協議会

交通事業者

企業・市民・NPO等

新たな
サービスの
提供

観光客

大阪・京都・奈良市
への観光客

海外からの
観光客

【目標】

公共交通利用者増加
交流人口の拡大

※事業内容により実施主体が変化

公共交通を活用した観光戦略 先進事例

路線バスの可能性を考えるシンポジウム in 兵庫（平成28年2月15日）

基調講演 「よその街のバスは難しくない

・公共交通で訪問できる地域になるための情報整備・」

講師：井上 学（平安女学院大学国際観光学部）

【観光で利用されるバスとは？】

- 目的地の“魅力が大きく”、目的地までの“ハードルが低い”
- 鉄道のような体験型イベントは難しいので、路線そのものに価値・ストーリーを付加
- 目的地への移動に路線バスを活用し、移動中の観光も視野に入れる

【バス案内情報の整備】

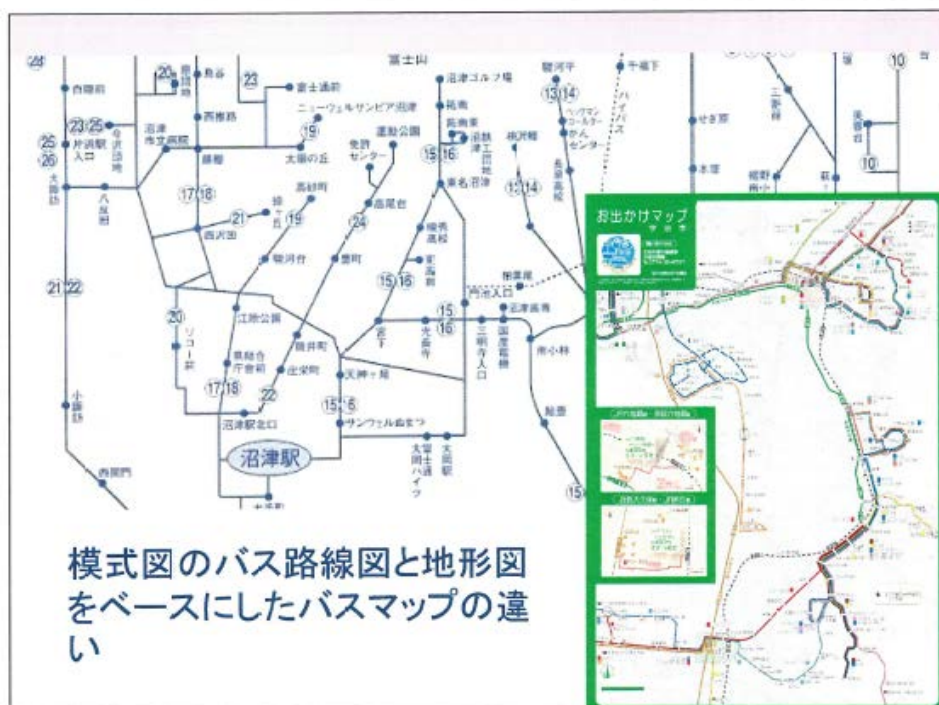
- 移動の情報提供を強化する
- HP の充実（路線図等以外にも、乗り方やお得な乗車券情報、オススメ商品を優先的に）
- わかりやすい路線表示（バス停名の統一、空間性があり正確な路線図作成）
- アナログ情報の充実（現地でのバスマップ配付やコンシェルジュなど）
- 鉄道駅とバスの連携（両者を区別せず、スムーズに移動できるよう整備）

【バスの乗車抵抗をなくすために】

- 地域住民の利用増加
- 体験による乗車抵抗の軽減

【交通政策を進めるにあたって意識したいこと】

- 利用者は鉄道・バスの事業者で選んでいるのではなく、地域で選んでいる
- 地域の人にも利用してもらうことで路線を維持し、既存路線を育てる
- 情報の整備と提供方法を考え、可能ならば定期的にイベントを開催する
- 交通事業者同士で利用者を奪い合うのではなく、自動車利用者からの移転を狙う
- 利用状況や赤字額などは沿線地域に常に情報発信し、地域の協力を促す
- 欠損補助では運行継続のモチベーションにはつながらない





■車内情報の共通化(左:京都市バス・右:京都バス)

バスの乗り方

乗車時(後扉から)

カードはこちろ

降車時(前扉から)

乗車はこちろ

運賃の支払い方法

支払い方法	乗車時	降車時
現金	乗車時に現金を投入する	降車時に現金を投入する
ICカード	乗車時にICカードをタッチする	降車時にICカードをタッチする
バスカード	乗車時にバスカードをタッチする	降車時にバスカードをタッチする

乗車ICカード(バスカード・バスパスカード)

ICカード	乗車時	降車時
バスカード	乗車時にバスカードをタッチする	降車時にバスカードをタッチする
バスパスカード	乗車時にバスパスカードをタッチする	降車時にバスパスカードをタッチする

地区定期券

乗車時に地区定期券を提示する

エリアフリーバス

乗車時にエリアフリーバスを提示する

ICカード

乗車時にICカードをタッチする

バスの乗り方ガイド

小田急バス おこさまおでかけガイド

江ノ電 おこさま電車乗り方ガイド

弘南バス ご利用ガイド

乗車ガイド

■ターゲットを絞った乗り方ガイド

乗り方教室

■ベビーカー乗り方講座

移動については子育てで父親が活躍できる！

街頭啓発による公共交通の利用啓発について

利用者の低迷しているコミュニティバスの利用啓発として、以下の日程で桜井駅前や商業施設にて街頭啓発を行います。街頭啓発の中でコミュニティバスの無料乗車券を配布し、バスに乗っていただくきっかけとしていただき、利用促進を図ります。

【街頭啓発概要】

桜井駅を利用する方に対し、乗車券と別紙啓発チラシを配布し、公共交通の利用促進を図る。

期間：平成28年2月24日（水）～3月31日（木）（予定）
（乗車券がなくなり次第終了）

場所：桜井駅前、市内商業施設

<桜井市コミュニティバスの特徴>

Q.300円でどこまで行ける？
A.市の端から端まで行けます！

桜井市のコミュニティバスは、全ての路線が桜井駅を通り、市役所、スーパー、病院などの主要施設に行くことができます。また、乗り継ぎ割引や市民乗車証を活用することで、片道300円で端から端まで行くことができます。

本チラシに添付している乗車券は、桜井市コミュニティバス・奈良交通路線バス共に使用することができるので、一度利用してみたいはいかがでしょうか。

なぜバスが必要なのか？

みなさんは、どこかにお出かけする際、どんな移動手段をとっていますか？「車があるからバスには乗らない、必要ない」と考えている方は多くいるかと思います。では、車の運転ができないくらい高齢になったときはどうでしょうか？

利用者の少ないバス路線は、行政の力だけでは維持していくのが大変難しいです。お出かけの際はなるべく公共交通を利用し、「市民みんなでバスの路線を守る」という考え方が必要になります。

また、マイカーから公共交通に乗り換えることにより、地球温暖化等の環境悪化に歯止めをかけ、渋滞の緩和にもなります。

問い合わせ先

桜井市行政経営課 TEL:0744-42-9111(内線256)

桜井市コミュニティバス路線図

時刻表や割引制度は、
QRコードから桜井市
ホームページを
ご覧ください。



路線名

- 初瀬・朝倉台線
- 西北部循環線
- 北循環線
- 南循環線
- 多武峯線

乗継割引制度を実施します

コミュニティバスを桜井駅で乗り継いだ場合は、乗り継いだ先(2台目)のバスの運賃が190円割引になります。割引の手順は以下の通りです。

- ①1台目のバスの乗車時に整理券を発行する。
- ②2台目のバスの降車時に、1台目で発行した整理券を運転手に見せ、運賃を払う。

◆桜井市コミュニティバスに関するお問い合わせは……

奈良交通榛原営業所 ☎0745-82-2201
桜井市役所行政経営課 ☎0744-42-9111(内線256)

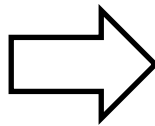
平成 28 年度 上之郷デマンド型乗合タクシーの運行計画について

上之郷デマンドタクシーは現在、市の東北部の上之郷地域から、駅や病院までを結ぶ生活路線として、買い物や通院にご利用いただいています。しかし、桜井駅南で営業されていたスーパー「まねき屋」が平成 27 年 8 月に閉店し、デマンドタクシーでは買い物施設に直接行くことができなくなりました。このことに対し、平成 27 年 12 月 15 日に地元住民から要望がございましたので、運行計画を以下のように変更することを提案いたします。また、運行日の追加についても要望がありましたので、同じくご議論いただきたいと思います。

【運行曜日、時間の変更】

平成 27 年度まで

曜日	行き	帰り
月曜	9 時 10 時	12 時 14 時 16 時
木曜	9 時	14 時 16 時
金曜	9 時	14 時



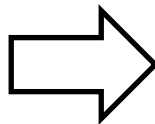
平成 28 年度以降

曜日	行き	帰り
月曜	9 時 10 時	12 時 14 時 16 時
水曜	9 時	13 時 16 時
木曜	9 時	14 時 16 時
金曜	9 時	14 時

【発着地点の追加】

平成 27 年度まで

着	桜井駅、長谷寺駅、病院
発	桜井駅、病院



平成 28 年度以降

着	桜井駅、長谷寺駅、スーパー センターオークワ、病院
発	桜井駅、長谷寺駅、スーパー センターオークワ、病院